

公益財団法人肥後奨学会令和3年度事業報告書

I) 有斐学舎の運営

(1) 入舎生の状況

- ・令和3年4月の新入舎生は12名。定数86名に対し、総勢59名でスタートした。
令和3年度中4名が退舎し、令和4年3月に晴れて卒業退舎が12名で、令和4年3月末の舎生の数は43名であった。
令和4年4月に新たに13名が入舎したため現在56名である。
- ・令和4年4月の在舎生について
現在の名簿 (別紙、出身高校別、在大学別参照)
- ・卒舎学生について
別紙参照

(2) 有斐学舎の運営

- ・学舎運営の財源は、舎生の舎費収入と基本財産等の運用益収入である。
舎生からの舎費は、短期の滞納はあるが、督促を繰り返すなど収入確保に努めた。
基本財産3億円に特定財産5千万円を加えた合計3億5千万円を基金とした運用により、純利益合計5千261万7,414円の利益がでたが、これを定期預金とした。
このうち500万円を取り崩し運営費に充当した。運用に関しては、日米とも株価が乱高下しており、暫く様子見を余儀なくされている。今後、時期を見て再度、基金運用委員会を再開するなどした上で、慎重の上にも慎重な姿勢を崩さず検討して行きたい。

(3) 有斐学舎の建物管理について

- ・舎生が勉学に集中できる為の環境整備の一環として、ユーティリティ改善に努めた。
建物の老朽化に伴い、トイレなどの故障が相次ぎ、修繕費も頻繁になっている。また、58室全てのエアコンについて一斉にクリーンアップを実施した。
- ・防災意識を高めるため、防火責任者を決めたほか、自治会の消防訓練にも参加した。

(4) 小萩山分収林

- ・小萩山分収林約1万5千本のうち残りの3分の1及び植木町北蒲原の分収林を6月末に売却。残り3分の1の簿価は、1千463万0,668円となっていたが、住友林業が、2千163万7千円で落札。北蒲原は地元の木場木材が188万6,500円で落札。
「ウッドショック」と呼ばれる木材の高騰により、1回、2回の売却より遥かに高効率の結果となった。この結果、明治時代にはじまり、戦後復興期を経て連綿と続いてきた分収林事業への協力には終止符を打つことになった。

(5) 役員会の開催

- ・事業報告書案と決算案を審議する理事会は5月29日(土)、定時評議員会を6月13日(日)に開催した。令和4年度の事業計画書案及び収支予算案を決める春の評議員会と理事会は、3月5日(土)に、これまで通り同日に合同会議で開催した。しかし、コロナウイルスの影響で、ズーム使用によるオンライン会議とする事を余儀なくされた。但し、両会議における議決は、個別に別々に行った。

(ア)理事会

開催月日	会議事項	会議の結果
令和3年・5・29	(1) 令和2年度事業報告書案及び決算報告案について	(1)(2)(3)(4) 事務局案を承認
	(2) 定時評議員会の開催について	
	(3) 理事・評議員の推薦について	
	(4) お萩山と植木町北蒲原の分収林の売却について	
令和4年・3・5	(1) 令和4年度事業計画書案・予算案について	(1)(2)(3) 事務局案を承認
	(2) 評議員会の開催について	
	(3) 定款の一部を改訂することについて	

(イ) 評議員会

開催月日	会議事項	会議の結果
令和3年・6・13	(1) 令和2年度事業報告書案及び決算案について	(1)(2)(3) 事務局案を承認
	(2) 理事・評議員の選任について	
	(3) お萩山と植木町北蒲原分収林の売却について	
令和4年・3・5	(1) 令和4年度事業計画書案・予算案について	(1)(2) 事務局原案を承認
	(2) 定款の一部を改訂する事について	

(ウ) 運営委員会

- ・財団の適正かつ健全な運営のために、理事長及び在京役員等による運営委員会会議を毎月一回開催し、以下のような検討を行った。

予算・決算原案等の検討

毎月予算執行の状況チェック

事業計画の進捗状況共有

その他

II) 在舎学生の指導

- ・年間を通しての、在舎学生の指導については、新型コロナウイルスの感染拡大の影響によりかなりの制約を受けることとなった。(詳細は下表)
- ・毎月15日夜10時から開催する舎生総会は、3密を避けることを条件に辛うじて開催。

しかし、特に入舎式、成人式、予餞会などの同じ弁当を食しながらのイベントは中止を余儀なくされた。学生自治会主催の有斐祭は、感染を避けるためスポーツイベントのみ実施した。

- ・就職活動などについても、自由に先輩・OB からアドバイスを得ることが困難だった。
- ・日刊紙3紙、その他図書、書籍などの購入を行った。

(1) 有斐学舎の行事 令和3年度有斐学舎の行事

○入舎式 4月中旬に実施してきたが見送った。
○新入生歓迎旅行 5月連休後の土、日に実施してきたが、見送った。
○大掃除(夏)+ビアガーデン 7月18日(日) 於:有斐学舎 午前中大掃除、日頃掃除できない共用スペースの掃除(風呂・トイレ・食堂・ベランダ・廊下・玄関・階段など)
○有斐祭 11月27日(土)、28日(日) 例年、3日間にわたって実施したが、2日間に短縮し、スポーツイベントをメインとした。 一日目 バasketボール 二日目 マラソン、ボウリング、フットサル
○大掃除(冬) 12月12日(日) 日頃掃除できない共用スペースの掃除(風呂・トイレ・食堂・ベランダ・廊下・玄関・階段など)
○成人式 1月中旬の日曜日に実施してきたが、見送った。但し、記念の2千円図書券は成人に達した学生全員に配布した。
○予餞会 2月中旬の日曜日に実施してきたが、見送った。
○QSL委員会 英会話や、劇鑑賞等を実施してきたが、全て自粛した。

(2) 地域活動

町内会定期総会

4月9日(土) コロナ禍のため文書で開催。有斐学舎は議案に賛成で郵送。

III) 舎生の募集

(1) 募集要項などの配布

令和4年度の募集要項を作成し、熊本県県政情報文書課、熊本県東京事務所を始め、熊本県下高校や大学予備校に送付。関係者への配布をお願いした。

(2) 熊本県下高校などへ推薦依頼

熊本県下高校や大学予備校を訪問。校長先生や進路指導の先生などに、有斐学舎の募集ポスター・チラシを渡し、学生への掲示、推薦をお願いした。

(3) 熊本県県立・私立校長会へのお願い。

熊本県県政情報文書課の協力の下、熊本県立高校長会、私立高校長会で有斐学舎について説明して頂き、関係生徒への周知と推薦をお願いした。

(4) 各新聞、放送局等マスメディアへ依頼

熊本日々新聞、読売新聞社に募集要項の掲載をお願いした。

NHKを始め各放送局にお願いし、募集要項の放送をお願いした。

(5) 各市町の広報誌にPR掲載

熊本市、宇土市など県内の市町村の広報誌に、募集要項の内容を記事として掲載をお願いした。

(6) 新入舎生募集は、推薦入試やAO入試など入学試験のやり方が多様化している現状に合わせ、面接の第1回を1月に実施し、第2回は3月中旬にどちらも熊本市で実施した。第3回は有斐学舎で28日(月)に予定したが該当者はなかった。

・令和4年1月22日(土) 於 熊本国際友好交流会館

男子8名女子2名 面接10名

・令和4年3月12日(土) 於 熊本国際友好交流会館

男子4名女子2名 面接6名

・令和4年3月28日(月) 於 有斐学舎

応募なし

新入学生は、現在合計13名(男子9名女子4名含む)が入舎

IV) 付属明細書

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する付属明細書は、事業内容を補足する重要な事項が無いため作成しない。

(注)

第3項

「事業報告の付属明細書は、事業報告の内容を補足する重要な事項をその内容としなければならない。」

以上